

# ビア・カンペシーナ創立30周年

スローガン「私たちは食糧を作り、世界を変えていこう」



# 第8回 国際会議 参加報告

福島県農民連 横山真由美



ビア・カンペシーナ第8回国際会議（2023年12月1日から8日）に参加した報告をします。

まず、皆さんは「ビア・カンペシーナ」をご存じでしょうか。ビア・カンペシーナとはスペイン語で直訳すると「農民の道」という意味です。1993年に設立され、30周年を迎えました。現在は世界を10の地域に分け、83カ国185の組織が活動しています。日本で加盟しているのは農民連だけ、農民連は東南アジアという地域に属しています。「私たちは食糧を作り、世界を変えていこう」をスローガンに、世界中の農民、2億人以上が協力しあって運動を進めています。

## 女性が多く運動に関わってきた

ビア・カンペシーナでは、組織が結成された当初から多くの女性が運動に関わってきた歴史を聞きました。結成当時は国際コーディネーターという役員が全員男性という状況を、女性からの提案で半数は女性にすることに。結成から数年で国際コーディネーターの半数が女性になっただけでなく、前代表と現在の代表は女性が務めています。各加盟組織からの参加者は、必ず、男性1名、女性1名という取り決めもされています。ここに途中から青年1名も加わり、現在では会議場の半数は女性、そして青年もとても多い会議となっています。難しい話をしていても明るく、エネルギーに溢れていました。みなさんの周りの、特に農業関係の会議はいかがでしょうか？男ばかり、という会議になっていませんか？農民連の役員会、幹事会、理事会、いかがでしょうか？女性の意見は取り入れられているでしょうか？



代表（フランス）モーガンさん

農民連が属する東南アジア地域では、家父長制が依然根強く、女性の低賃金問題となっています。家父長制について、今の日本ではそんなに問題じゃないのでは？と聞いていましたが、例えば、農業技術や農業機械が男性目線で開発されている、とか、毎年の作付け計画を考える時に男性の考えだけで決まっている、女性の意見が取り入れられていないのか？など、具体的な例を挙げられると、確かに日本でも家父長制はまだ残っているのではないかと感じました。女性は農業の中心的役割を担い、大きく貢献しているのに、しいたげられている場面がある、それらを解消するには女性のフェミニズム、アグロエコロジーについての教育が重要であると地域から発言がありました。

## 東南アジア地域を代表して発言

全大会の中で、東南アジア地域を代表して発言をする機会が与えられました。食糧主権を実現する東南アジア・太平洋地域のたたかいについて、また女性の立場から強調することをまとめたものを発言しました。まず、地域に4つの課題があることを紹介しました。

- ① 自由貿易協定が小農・農民の農業を破壊してきた。
- ② 各国政府が進める新自由主義政策により、農業の大規模化、農薬・化学肥料の使用が推奨され、小農・家族農業は排除されてきた。
- ③ 軍拡と軍事化。
- ④ 女性に対する暴力がある。

これらの課題はあるけど香港やバリ行動などWTOやFTAに反対する大規模行動を行い強みがあることを



説明しました。また、各地域に共闘相手があることも紹介し、農民組織のほかに労働者、消費者、女性団体が集まるネットワーク組織があり、食糧主権を求めて活動していることなどを報告しました。最後に女性の立場から強調したいこととして、運動を大きくする上で農民・民衆フェミニズム、多様性の問題が不可欠であるということ。新自由主義に対抗し、気候危機や食糧危機の真の解決を目指す組織で女性が排除され、多様性が実現していなければ、問題に本気で取り組む姿勢が問われる。東南アジア・太平洋地域は言語も宗教も文化も多様な地域なので、多様性を維持した上で、農民フェミニズムに基づき食糧主権を実現したいと発言しました。



## 世界では農地を所有し栽培する事がかなわない

全体を通しての感想ですが、ビア・カンペシーナの会議の中では、土地や水、在来の種子、労働力、先祖伝来の知識が「奪われる」「搾取される」という言葉がたくさん登場します。日本は各農家が農地を所有し、作りたい作物を栽培しています。世界では、それがかなわず、世界中が日本のように農家が農地を所有する制度を手に入れたいと願って運動しています。それなのに日本は農家の高齢化や、担い手不足により耕作放棄地が増え、農地を農地として維持できず手放すことも増えてきています。先祖代々受け継がれてきた農地を、農地として次の世代に引き継ぐことができるように、農家や地域を支えることが農民

## 原発処理汚染水放出停止



今年は東南アジア地域の女性会議を開く年になっっているそうで、日本での開催が提案されているようです。会議の最終日には、福島原発処理汚染水放出の停止を求める連帯声明が採択されましたので、世界の仲間と力を合わせ、放出をやめさせる運動を強めるには良い機会だと思えます。開催が決定しましたら、全国の女性部の力を結集し成功させましょう。

## 農民連フラッシュ flash

### 担い手作り視察研修

2月末日、茨城県石岡市にある朝日里山ファームさんへ視察研修に行きました。自治体とどのような連携をとって就農者を支援しているのか話をうかがい、新規就農者へのサポートが大変充実していることが分かりました。近年農業従事者の高齢化や後継者不足が課題となっていますが、地域が一つになり農業を始めたいと思う方が挑戦できるような環境を増やしていくことが重要だと思います。



### 安達地方農民連総会

3月2日、ラポートあだちで開催57名が参加。佐藤佐市市長は安達地方農民連の30年を受け「次世代へ希望を届けること、家族農業の10年を実践できる政治を私たちの運動で実現しよう」と挨拶。来賓の全国連の長谷川敏郎会長が食料自給率やアグロエコロジー・家族農業の重要性などの講演。新会長の菊地好幸さんは「安達地方農民連は全国的に見ても会員が多く組織率も高い。これは先の役員や会員さんのおかげ。さらに発展させていきたい」と挨拶。また、踊りや歌などの出し物で、4年ぶりとなる懇親会は大いに盛り上がりました。



## オンラインストア始めました。

あまぎけや有機米などがご購入いただけます！



こちらのQRから

